

第3期地域福祉活動計画の取り組みの体系

ビジョンⅠ 支え合う からつ

- 福祉に関する知識を高め、理解を深めよう
(1) 福祉教育のあり方、福祉体験講座の内容を見直し、親子で学べる機会を増やす
(2) 地域の住民、施設、事業所などが合同で福祉に関して学ぶ機会をつくる
(3) 支援のあり方について学ぶ機会をつくる
- 顔の見える関係を作ろう
(4) 地域の中でみんなが見守り・見守られる関係をつくる
(5) 地区(校区)社会福祉協議会と連携し、地域住民が交流できる機会を増やす
(6) 一人ひとりの災害に対する意識を高め、地域として災害に備えること、災害時の支え合い体制の重要性について学ぶ機会をつくる
- 地域の中での協働の仕組みをつくろう
(7) 地域の役員や組織、団体同士のネットワーク構築、協力体制の整備を支援する
(8) 地域にある組織、団体について、その目的や役割、活動を地域住民に周知する
(9) 地域での活動について地域内の施設や事業所にも知ってもらう

ビジョンⅡ つながる からつ

- わかりやすい、伝わりやすい情報発信をしよう
(10) 社協だより、ホームページを充実させ、すべての人に情報が伝わる発信方法を取り入れる
(11) 地域組織や団体などの広報活動を支援する
(12) 行政放送や市報のほかさまざまな通信媒体を活用し、広く情報を発信する
(13) 職員が地域に出向き、唐津市社会福祉協議会が行う事業やサービスなどについて説明する
- 地域の中で情報発信・伝達の体制を充実させよう
(14) 地域内の組織や団体の情報共有の場をつくる
(15) 民生委員・児童委員、福祉員、町内会役員での情報共有の仕組みをつくる
(16) 身近な地域で悪質商法や特殊詐欺、介護予防、健康増進などについて学ぶ機会をつくるとともに、サロンや出前講座を活用し住民同士で情報共有できる仕組みをつくる
- 必要な情報を活用し、サービスが行き届く仕組みをつくろう
(17) 身近な相談窓口を設置する
(18) 地域のコーディネーターを設置する
(19) サービス利用手続きガイドブックを市や関係機関と協力して作成する

ビジョンⅢ 創り出す からつ

- 地域のニーズを把握しよう
(20) 地域での座談会を開催する
(21) 住民アンケートを実施する
(22) 職員が地域に積極的に出向きアウトリーチの機会を増やす
(23) 地域、他機関・他職種で課題を共有する
- 地域資源を活用しよう
(24) 地域資源を把握し、地域資源マップを作成するとともにバリアフリーの点検を行う
(25) 地域資源の活用方法を周知し、活用に向けた支援を行う
(26) ボランティア、各団体などの活動の場づくり、活動の橋渡しを行う
- 新たな資源、サービスを開発しよう
(27) 地域のニーズに応じた事業をめざし、既存事業の見直し、新規事業の立ち上げを行う
(28) 市や関係機関、事業所などと協力・連携し、新たなサービスを開発する
(29) 地域独自の事業を開発するため地区(校区)社会福祉協議会の活動への支援を強化する
(30) 地域住民による地域活動の活性化に向け、人材育成、活動立ち上げの支援を行う
(31) 地域福祉活動を行う福祉団体、ボランティア団体などの運営面における支援を行う

ビジョンⅣ 絆のからつ

- みんなが集まることができる居場所をつくろう
(32) 地域内の居場所に関する調査を行う
(33) ニーズごとのサロン、誰でも参加できるサロンを身近な地域につくる
(34) 居場所づくりを行うNPOや個人への支援を行う
- みんなが参加しやすい仕組みをつくろう
(35) 地域で生きていることへの意識を向上させる
(36) 地域活動の広報を行う
(37) 移動手段についての支援方法を検討する
- 一人ひとりが役割を持って活躍できる地域をつくろう
(38) 世代ごと、一人ひとりに行事や活動で役割を担ってもらい、無理なくやりがいをもって参加できる仕組みをつくる
(39) 事業所や企業が地域貢献できる機会をつくる
(40) 地域内での孤立など社会参加に関する問題を抱える人が、社会参加できるよう地域の支援体制を整備する

第4期地域福祉計画・地域福祉活動計画の取り組みの体系

資料4

